

「ここ10年の坂和的中国電影論と坂和的日中交流の楽しみ方」

弁護士 坂和章平

<第1部 自己紹介>

第1 弁護士坂和章平のプロフィール

事務所：〒530-0047

大阪市北区西天満3丁目4番6号

西天満コートビル3階

坂和総合法律事務所：Tel.06-6364-5871

Fax.06-6364-5820

1. ホームページ⇒

https://www.sakawa-lawoffice.gr.jp

1949年1月 愛媛県松山市に生まれる

1971年3月 大阪大学法学部卒業

1972年4月 司法修習生(26期)

1974年4月 弁護士登録(大阪弁護士会)

1979年7月 坂和章平法律事務所開設
(後 坂和総合法律事務所に改称) 現在に至る

2. 受賞

2001年5月 日本都市計画学会「石川賞」

日本不動産学会「実務著作賞」

3. 坂和章平の出版物(1985~2023年)・・・資料1

(1) 都市問題に関する著書

(2) コラム集等

(3) SHOW-HEY シネマルーム1~54

4. まちづくり事件についての主な判決

・阿倍野再開発訴訟

・津山再開発訴訟

第2 中国人留学生支援・交流

2000年から開始

~2024年まで継続(20年以上)

第3 中国旅行

1. 香港旅行・・・1997(平成9)年6月13日~16日

2. 中国(大連・旅順・瀋陽)旅行記

・・・2000(平成12)年8月10日~14日

3. 中国(西安・敦煌)旅行記

・・・2001(平成13)年8月9日~14日

4. 中国(北京)旅行記

・・・2003(平成15)年11月1日~4日

5. 杭州、紹興、烏鎮旅行記

・・・2004(平成16)年3月31日~4月3日

6. 桂林、深圳、広州旅行記

・・・2004(平成16)年6月10日~13日

7. 西双版纳(シーサンパンナ)、昆明、麗江、大理「雲南省

大周遊8日間」旅行記

・・・2004(平成16)年11月28日~12月5日

8. 台湾(台北・高雄・台南・日月潭「台湾4日間」)旅行記

・・・2005(平成17)年3月13日~16日

9. 中国(曲阜・泰山・済南・青島「中国5日間」)旅行記

・・・2005(平成17)年10月20日~24日

10. 中国(上海・杭州・烏鎮・無錫・鎮江・揚州・蘇州・周庄旅行「中国5日間」)旅行記

・・・(2006(平成18)年3月16日~20日)

11. 中国(北京)旅行記—北京電影学院特別講義の旅—

・・・(2007(平成19)年10月7日~11日)

12. 中国(上海)旅行記

・・・(2008(平成20)年8月22日~24日)

13. 北京・上海旅行記

・・・(2009(平成21)年3月24日~27日)

14. 上海旅行記

・・・(2009(平成21)年8月17日~20日)

15. 上海旅行記

・・・(2009(平成21)年9月17日~20日)

16. 厦門旅行記

・・・(2009(平成21)年11月6日~9日)

17. 大連・威海・青島旅行記

・・・2010(平成22)年3月13日~18日

18. 上海旅行記

・・・(2011(平成23)年11月3日~6日)

19. 上海・合肥・南京・上海旅行記

・・・(2012(平成24)年8月16日~24日)

20. 台湾旅行記

・・・(2014(平成26)年8月17日~21日)

21. 北京旅行記

・・・(2015(平成27)年6月28日~30日)

第4 中国語の勉強

・中国語検定4級合格(2011年12月)

・中国語検定3級合格(2011年12月)

・HSK中国語検定3級合格(2020年7月)

・HSK中国語検定4級合格(2021年6月)

・HSK中国語検定5級合格(2022年1月)

・中国語の歌から勉強

『中国語で歌おう! 決定版 テレサ・テン編』(アルク刊)

第5 中国の大学での講義

1. 2007年10月10日北京電影学院

「坂和的中国電影論」

2. 2009年11月9日厦門(アモイ)大学

「日本の『景観法』と重要判例について」

3. 大阪電気通信大学・王少鋒先生

「映画の見方・評論の書き方」

映画から見る国際コミュニケーション—日中韓映画比較—

・2020年5月27日

・2020年6月2日

・2020年12月21日

・2021年12月20日

・2022年6月

・2023年6月

<第2部 坂和的中国電影論>

第1 坂和と映画

1. 自己紹介

①1949(昭和24)年 愛媛県松山市生まれ(団塊世代)、

②中・高一貫受験 男子校、③学生運動、

④司法試験、⑤公害訴訟(10年)、⑥都市再開発・まちづ

くり(30年間)、⑦都市法政策 出版・講義、

⑧映画評論、⑨旅行記(中国へ約20回)

2. 私と映画

(1) 小学時代(1955~61年)

東映チャンバラ映画、『にあんちゃん』(59年)

(2) 中学・高校時代(1961~67年)

①3本立て55円(洋画+日活)、

②学校推薦(『ベン・ハー』など)、③試写会時々

(3) 大学時代(1967~71年)

①時々、名画座系(3本立て150円?)

②日活ロマンポルノ

(4) 司法修習生(1972~74年)

——深夜映画+ビデオ数台(年末年始)

(5) 超多忙時代(1974年からずっと)

——深夜映画+ビデオ数台(年末年始)

(6) 自社ビル移転、ホームページ開設(2000~2024年)

①映画評論執筆開始—試写室通い

②年間多い時は300本、現在150本

『シネマ1~54』出版

(7) 映画検定—キネマ旬報社・キネマ旬報映画総合研究

所主催

・『「映画検定」公式テキストブック』

・『「映画検定」公式問題集』

・4級合格(06年7月)

・3級合格(07年1月)

3. 私の1本・私のベスト5(2008年時点)

(1) 私の1本—『サウンド・オブ・ミュージック』(高3)

(2) 私のベスト5

【洋画】

①『風と共に去りぬ』(39年)

②『ウエスト・サイド物語』(61年)

③『卒業』(67年)

④『太陽がいっぱい』(59年)

⑤『さらば、わが愛 霸王別姫』(93年)

【邦画】

①『砂の器』(74年)

②『幸福の黄色いハンカチ』(77年)

③『人間の条件』(59~61年)

④『蒲田行進曲』(82年)

⑤『誰も知らない』(04年)

4. 私の愛読書

(1) 昔『スクリーン』『映画の友』

(2) 近時『週刊20世紀シネマ館』50冊+別巻10冊

『キネマ旬報』

(3) 参考書:『中国映画の明星』

『中国映画の明星—女優編』

(石子順・03年・平凡社)

(4) 私の夢『坂和流シネマと法律』の出版—実現済み

5. 坂和的映画論

(1) なぜ映画が面白いか?

①人間の本性に迫る、②人生の縮図、③知らないことを

体験、④歴史や恋愛の勉強、⑤夢と希望、元気の素

(2) なぜ映画評論を書くか

①書かないと忘れる、②書くことによって感動を記録、

③他者との議論のネタ、④読者にも夢と希望と元気を与

える

(3) 何が好きか?

①人それぞれ、②必ず好きなジャンルあり

(4) 映画評論の何が面白いか?

①映画の話題は老若男女に共通

②人間の本音に早く迫れる。本性が早く見れる、

③異なる意見、見方、感性を知る

(5) こだわりがわかる!

①私のこだわりは?②あなたのこだわりは?

③面白い人がたくさん・・・

6. 私の映画評論の特徴(ユニーク性)

(1) 弁護士の視点

①法廷のあり方、②各種の法律上のテーマ

③その他(危機管理のシステム)

(2) 都市法政策の講義、都市問題の実践からみる視点

①都市・住宅政策、②公害

(3) 歴史大好き人間の視点

中国、韓国、ヨーロッパ中世

(4) 文学大好き

シェイクスピア

(5) 戦争映画検討の視点

(6) 日本人論追及の視点(西欧や中国との対比)

(7) 恋愛大好き、ピュアな少年の視点(?)

(8) エロおやじの視点

(9) 時事問題検討の視点

7. 新聞連載の映画評論

(1) 産経新聞『That 's なにわのエンタメ』(03年10月

18日~07年6月15日、月1回、全34回)

(2) 大阪日日新聞『弁護士 坂和章平のLAW DE SHOW』

(07年11月9日~09年12月26日、週1回、全111

回)

(3) 公益社団法人 日本中国友好協会『日本と中国』

「熱血弁護士 坂和章平 中国映画を語る」(17年1月

号~継続中、月1回、83回) ...

資料2

第2 中国の近現代史

- 清の時代、植民地支配の時代—『阿片戦争』(97年)
日清戦争(1894~95年)
日露戦争(1904~95年)
- 孫文の時代—『宋家の三姉妹』(97年)
辛亥革命
1905年8月 「中国同盟会」発足
1912年1月1日 孫文を臨時大統領に選出
革命政府樹立
- 日中戦争(抗日戦争)の時代(1928~45年)
- 国共内紛時代(1945~49年)
- 新中国建設(1949年~)
 - 文化大革命—下放政策(1966~76年)
 - 北京電影学院再開(1978年)
 - 改革開放政策(1978年~)
 - 天安門事件(1989年)
- まとめ
毛沢東(1949年~) → 鄧小平(1978年~)
→ 江沢民(1989年~) → 胡錦濤(2003年~)
→ 習近平(2013年~) 2023年から3期目に突入

第3 中国電影 100年

- 中国映画の発祥
1905年—ドキュメンタリー映画上映
京劇の演目『定軍山』を記録したもの
それから100年「中国映画博物館」建設(2006年)
- 1931年9月17日(満州事変)~1945年8月15日(日本敗戦)まで
反日・抗日映画のオンパレード
- 1945年8月15日(日本敗戦)以降
→ 満州映画協会(満映)の崩壊と、東北電影の設立
・理事長 甘粕正彦
・大スター 李香蘭
- 文化大革命(1967年~77年)と、北京電影学院の再開(1978年)、第1期生の活躍(1984年~)
- 日中国交回復と中国映画の日本への導入
 - 日中国交回復(1972年9月29日)
田中角栄+周恩来
 - 第1回中国映画祭(1978年)
 - 中国映画祭(1988年)
—(株)徳間書店東光徳間事業部
→ 第5世代監督の映画紹介
 - 中国映画祭(1995年)
 - 中国映画祭(1997年)
 - 中国映画祭(2000年)
 - 中国映画の全貌(2004年)
- 1997年香港返還
 - 返還までの香港映画—香港は全く別、イギリス圏

- 活発
- (2) 返還以降の香港映画 → 合流
 - (3) 10年を経過した2007年の香港映画
→ 『インファナル・アフェア』3部作
 - (4) 香港映画が果たした役割
—1990年代初頭から名作続出
 - (5) 2014年雨傘運動
2019年2月 逃亡犯条例の改正
7. 台湾をめぐる情勢
 - (1) 国共対立(1945~49年)
 - (2) 2・28事件(1947年2月28日)
—『悲情城市』(89年)
→ 戦後中国から台湾に渡ってきた外省人である国民党が、戦前から台湾に住んでいた住民(本省人)たちの抗議運動に対して武力で弾圧した
 - (3) 蒋介石台湾へ(1949年12月)
 - (4) 国民党 VS 民政党—2つの中国をどう考える?
台湾の独立問題
 - (5) 2015年11月7日中国共産党習近平 VS 中華民国(台湾)馬英九総統の歴史的会談(1949年の分断後はじめて)(民進党の次期総統蔡英文は猛反発)
 - (6) 2024年1月 台湾総統選挙 → 民進党勝利(国民党の衰退と第3党の進出)
 - (7) 台湾映画の果たした役割

第4 第5世代監督の果たした役割 (特に張藝謀と陳凱歌)

- 第5世代監督以前の監督たち
- 北京電影学院の果たした役割
- チャイニーズ・ニューウェーブの特徴と歴史的意義(1984年~)
 - (1) 中国独自の文化、力強さ
張藝謀監督—『紅いコーリャン』『紅夢』『菊豆』
陳凱歌監督—『黄色い大地』
 - (2) 中国の歴史(古代、近代史)
張藝謀監督—『活きる』
陳凱歌監督—『始皇帝暗殺』
『さらば、わが愛/霸王別姫』
- ハリウッド進出の功罪
張藝謀監督—『HERO(英雄)』(02年)
『LOVERS(十面埋伏)』(04年)
陳凱歌監督—『PROMISE』(05年)
- 田壮壮(ティエン・チュアンチュアン) 監督の独自路線は?
『青い罌』(93年)、『春の惑い』(02年)
『吳清源 極みの棋譜』(06年)
- 霍建起(フォ・ジェンチイ) 監督の独自路線は?
『山の郵便配達』(99年)、『故郷の香り』(03年)
『ジョンヤンの酒家』(03年)

第5 第6世代監督の果たした役割

- 第6世代監督の意義—第5世代監督との違い
- 第6世代監とその作品
賈樟柯(ジャ・ジャンクー)
『一瞬の夢』『プラットホーム』『青の稲妻』
『世界』『長江哀歌』
張楊(チャン・ヤン)
『胡同(フートン)のひまわり』
張元(チャン・ユアン)
『緑茶』『我愛你』
- 第6世代監督の映画祭受賞と検閲

第6 第6世代監督以降の監督たち、今や第8世代! 趙薇(ヴィッキー・チャオ) 監督

『So Young~過ぎ去りし青春に捧ぐ~(致我們終將逝去的青春)』など

第7 なぜ、中国映画が好きか?(坂和的興味の視点)

- 歴史大好き
- きれいな女優大好き
- 旅行大好き
- 活劇モノ大好き

第8 中国映画にみる論点(坂和的問題提起)

- 文化大革命をどう考える?
- 下放政策をどう考える?
- 中国土地バブルをどう考える?
- 都市問題—再開発をどう考える?
- 民族問題をどう考える?
- ドキュメンタリー映画をどう考える?
- 日中戦争をどう考える?
- メディアの管理体制と検閲をどう考える?
etc.

第9 坂和が見て書いた中国映画370本・・・資料3

- 『シネマルーム5』66本
- 『シネマルーム17』83本
- 『シネマルーム34』90本
- 『シネマルーム44』58本
- 『シネマルーム54』73本

第10 中国映画のジャンル分け

- 古代歴史モノ—『始皇帝暗殺』『HERO(英雄)』
『女帝 エンペラー』『三国志』
- 近代歴史モノ—『宋家の三姉妹』『活きる』『阿片戦争』
- 戦争モノ—『ヘブン・アンド・アース』『国姓爺合戦』
『SEVEN SWORDS セブンソード(七剣)』
- 冒険活劇モノ—『レジェンド 三蔵法師の秘宝』

- 『花都大戦 ツインズ・エフェクトII』
5. ドキュメンタリー映画—『延安の娘』『蟻の兵隊』
『ココシリ』
 6. 都市・住宅問題—『上海家族』『世界』
 7. 恋愛感動作—『最後の恋、初めての恋』『緑茶』『我愛你』
 8. 人間ドラマ—『山の郵便配達』『ジャスミンの花開く』
『玲玲の電影日記』『単騎、千里を走る。』
『長江哀歌』
 9. 企業モノ—『CEO』
 10. 学校モノ—『子供たちの王様』『草ぶきの学校』
『思い出の夏』
 11. お葬式モノ—『ハッピー・ヒューネラル』『涙女』
 12. バイオリンもの—『小さな中国のお針子』
『北京ヴァイオリン』
 13. 格闘技モノ—『スピリット』
 14. これぞ中国映画!—『幸せの絆』『キムチを売る女』
『雲南の少女 ルオオマの初恋』
『こんにちは、私のお母さん』
 15. 中国発の SF モノ—『流転の地球—太陽系脱出計画—』
 16. 近時目立つ戦争大作—『戦狼2』『エイト・ハンドレッド(八佰)』『1950 鋼の第7中隊』
その他

第11 この映画、あの映画をどう見るか? (坂和的検討の視点)

- 第5世代監督の代表作
『紅いコーリャン』『活きる』『あの子を探して』
『初恋のきた道』『至福のとき』『黄色い大地』『さらば、わが愛/霸王別姫』『始皇帝暗殺』『北京ヴァイオリン』
『青い罌』『吳清源 極みの棋譜』『山の郵便配達』『故郷の香り』『ジョンヤンの酒屋』など
- 第6世代監督の代表作
『ココシリ』『長江哀歌』『胡同(フートン)のひまわり』
- 近時の話題作
『孔雀 我が家の風景』『ジャスミンの花開く』
『幸せの絆』『玲玲の電影日記』『小さな中国のお針子』
『上海家族』など
- 中国映画の代表作
『阿片戦争』『芙蓉鎮』『宋家の悲劇』
- 日本で大ヒットした中国映画
『山の郵便配達』
『初恋のきた道』

<第3部 坂和的日中交流の楽しみ方>

第1 莫言さんノーベル文学賞おめでとう **がんばったで！40年「巻頭特集」(1～7頁、12～14頁)**

1. 乞う、ご期待！7月26日に中国人作家・莫言と坂和弁護士が対談！（事務所だより第17号 11年盛夏号）
2. 莫言文学のご紹介～『蛙鳴(あめい)』（11年5月、吉田富夫訳、中央公論新社）（事務所だより第17号 11年盛夏号）
3. 中国人作家・莫言との対談は？有馬温泉での温泉談義は？（11年7月26日～27日）（事務所だより第18号 12年新年号）
4. 莫言さん ノーベル文学賞受賞おめでとう！（事務所だより第20号 13年新年号）

第2 莫言さんノーベル賞受賞までの毛丹青老師と坂和の共同作業あれこれ！

がんばったで！40年「巻頭特集」(8～11頁)

1. 蘇童座談会（08年4/2）
2. 『取景中国』出版に向けて打ち合わせ開始
3. 『取景中国』出版 上海ブックフェア（09年8/18）
4. 大学での対談・共同講演あれこれ
5. CCTVデビュー！（09年10/11）
6. 定遠号プロジェクト（10年3/15）

第3 2007（平成19）年10月10日 北京電影学院での特別講義

がんばったで！40年第3編第2章8（343、344頁）

1. ついに北京電影学院での特別講義が実現した！そのきっかけは、事務所だより第9号の交遊録に登場した、北京電影学院客員教授の肩書をもつ古澤敏文氏と意気投合したこと。北京電影学院は、中国第5世代監督の張藝謀（チャン・イーモウ）や陳凱歌（チェン・カイコー）らを輩出した世界でも珍しい国立の総合映画大学の最高峰。そこで学ぶ約50名の院生を前に、2時間半の授業で私が熱く語ったのは「坂和的中国電影論」。
2. 10月9日の打合せと昼食会そして学院内の見学を経て、翌10日、学院内には「日本著名電影評論家坂和章平談 中国電影在日本」と書かれた私の顔写真入りの大きなポスターが。うれし恥ずかし気持ちはいっばいで45分前に教室に入ったところ、既に最前列の席をキープする約10名の院生がいた。配布した授業のネタは中国語版レジメ4枚だけだが、私の手元には膨大な資料が。ちなみに、当日は朝4時半に起きて、ホテルの部屋で講義メモをバッチリ作成。
3. 授業終了後は『SHOW-HEY シネマルーム』の中国語版はないのか？』をはじめとする質問が次々と出され、私の講義に対する院生たちの興味と関心の強さがありありと！そして今や、この講義録を含む『坂和的中国電影大観』パート2となる『シネマルーム17』の出版計画は確定したうえ、いよいよ中国人民13億人をターゲットにした中国語版による『坂和的中国電影大観』の企画が現実的テーマに。
4. なお、10月9日の古澤氏との打合せの際、喫茶室で出会ったのが『吳清源 極みの棋譜』（06年）の田壮壮（ティエン・チュアンチュアン）監督。そこで、私たちは厚かましくも自己紹介をさせていただいたうえ、ツーショットの写真を。こりゃ一生の記念写真に……。そして、大学を出る時は学長たちと記念写真を。また、入口では再度記念写真を。

第4 2015（平成27）年6月29日 北京電影学院“実験電影”学院賞の授賞式出席

がんばったで！45年「巻頭特集」(16～28頁)

1. 北京電影学院“実験電影”学院賞の発足

第1 北京電影学院“実験電影”学院賞の発足（人の縁の積み重ね）(07年～14年)

- 1) 坂和による北京電影学院での集中講義『坂和的中国電影論』（07年10月10日）
 - ・日本側は古澤敏文氏（事務所だより第9号で紹介）、中国側は美術学部の王鴻海教授と劉旭光教授の世話によるもの。
 - ・日本留学の経験もある劉教授は日本語もペラペラ。後述の劉茜懿さんや、日本人留学生の安藤直子さんを含めた約60名の受講生の熱気はすばらしいものだった。
- 2) それから7年。北京電影学院を卒業し、早稲田大学に留学中だった劉教授の娘である劉茜懿さんから連絡が入り、2014年7月30日、劉教授、劉曉清教授、霍廷霄教授（張藝謀監督の映画で美術デザインを担当）たちが私の事務所と自宅を訪問。机の上に並ぶ、『シネマルーム』1～32を中心とした書籍を話題に、事務所での公式対談は有意義なものになった。
- 3) 続く、会場を自宅マンションに移しての夕食会では、中国映画の話が盛りあがる中で、大いに飲みかつ食べながら、3人の教授たちが北京電影学院聯合作業卒業制作プロジェクト坂和章平賞の設置を提案。坂和を主席スポンサーとして、

同賞を発足させる話し合いがされた。

- 4) 北京電影学院内での協議が進み、坂和と北京電影学院との間で北京電影学院学生総合映画製作作業新視覚賞に関する次のとおりの協定書を締結（2014年11月）。

- ①坂和は北京電影学院の青年映画芸術を発展させることを目的として、「独自の創作を奨励し、かつ、当該創作に係る著作権その他の権利を保護し、海賊版の跳梁を許さない」活動の首席スポンサーに就任（3年間）。
- ②坂和は首席スポンサーとして、年間100万円を寄付し、イベント等に参加する。
- ③北京電影学院は、学生の映画製作を奨励する「新視覚賞」を創設し、毎年10月以降、3、4年生と院生が製作する映画から受賞者を決定する。
- ④坂和は毎年5月頃に開催する、新視覚賞授賞式に参加し、その年度の寄付金100万円全額を賞金として授与し、坂和章平の称号を記載した表彰状を授与する。

- 5) 以上の結果、北京電影学院“実験電影”学院賞が決定し、(予定をやりくりしての) 主席スポンサーとしての授賞式への参加を決定（2015年6月）

<授賞式でのスピーチは次のとおり>

授賞式スピーチ 2015.6.29（月） 北京電影学院にて

弁護士兼映画評論家 坂和・章平

- 1) 皆さん、こんばんは。私は日本からやってきた坂和章平です。1949年1月生まれの私は今年66歳です。私は、2007年10月10日にここ北京電影学院で「私の中国映画論」と題する講演を行いました。その時の聴講生の1人が北京電影学院を卒業して早稲田大学に入学し、今年同大学の博士号を取得した劉茜懿（リュウ・チェンイ）さんです。
その劉茜懿さんと北京電影学院の教授であるお父様の劉旭光（リュウ・シューグアン）さんたち御一行が昨年7月に日本の大阪にある事務所と自宅を訪問してくれた際、私が北京電影学院“実験電影”学院賞のスポンサーになることが話し合われ、今年それが実現することになりました。本当に人間の縁とは不思議なものだと思うとともに、こんなかたちで私なりの日中友好活動が深められることを嬉しく思っています。
- 2) 私は子供の頃から大の映画好きでした。それが高じて、2001年に事務所を自社ビルに移転しホームページを開設すると同時に趣味のページをつくりました。そして以降、弁護士兼映画評論家として年間250～300本の映画を観て、そのすべての評論を書き続けています。『SHOW-HEY シネマルーム』と題するその映画評論本は、ここ15年間で35冊になりました。とりわけ中国映画が大好きでその鑑賞数は250本を超えています。
- 3) そんな私にとって、本日こんな立派な会場で、こんな栄えある北京電影学院“実験電影”学院賞の授賞式に出席しご挨拶できることは本当に光栄です。劉茜懿さんとお父様の劉旭光教授、さらには副学院長の王鴻海（ワン・ホンハイ）教授や霍廷霄（フォー・ティンシャオ）教授、劉曉清（リュウ・シャオチン）教授、敖日力格（アオリゴ）教授たちに心からお礼申し上げます。今回の作品はそれぞれ優秀な作品ばかりでした。本日の授賞式が充実した意義あるものになることを期待しています。本日は本当にありがとうございました。

第5 公益社団法人 日本中国友好協会

『日本と中国』

「熱血弁護士 坂和章平 中国映画を語る」(17年1月号～継続中、月1回、83回)・・・**資料2**

第6 NPO 法人 大阪府日本中国友好協会

2018年5月 入会

2019年5月25日～ 理事

2017年11月28日 文化茶話会「坂和的日中交流の楽しみ方と坂和的中国電影論」

2019年9月18日 文化茶話会「坂和的中国電影論と日中交流の楽しみ方—『シネマルーム43』と『坂和的中国電影大観4』の出版を記念して—」

2024年3月16日 文化茶話会「ここ10年の坂和的中国電影論と坂和的日中交流の楽しみ方」

第7 中国大阪駐総領事館広報アドバイザー

2022年11月11日 2022大阪・中国映画週間開幕式・レセプション 滝田洋二郎監督と中国映画の魅力について対談

2023年3月28日 広報アドバイザー任命式

6月18日 「新疆ツアー第一陣」壮行会

8月31日 2023新疆文化と観光交流イベント

9月22日 中華人民共和国建国74周年祝賀レセプション

10月26日 2023大阪・中国映画週間開幕式・レセプション

2024年2月6日 2024年迎春レセプション

3月19日 広報アドバイザー任命式

<第4部 ここ10年の坂和的中国電影論> (資料3参照 (全370本から))

第1 中国本土

1. 近時は「ハリウッド対抗型」が顕著 (企画、資金、規模、俳優)
2. 法廷モノ、サスペンスものも次々と! 『シネマ44』第1編第7章
『見えない目撃者』『薄氷の殺人』『迫り来る嵐』
3. 中国特有の娯楽映画あれこれ これぞ中国映画! 『シネマ54』第2編第3章
『唐人街探偵 NEW YORK MISSION』『唐人街探偵 東京MISSION』『トゥ・クル・トゥ・キル』
『宇宙から来たモーツァルト』『こんにちは、私のお母さん』
4. 戦争映画大作を次々と! 『シネマ54』第2編第1章
『戦狼2』『八百 (The Eight Hundred)』『1950 鋼の第7中隊』
5. 歴史大作は相変わらず 『シネマ34』第1章、第2章
『孔子の教え』『エンプレス—運命の戦い—』『三国志 (Three kingdoms)』『レッドクリフ Part I』『レッドクリフ Part II』『王妃の紋章』『ウォーロード/男たちの誓い』『戦場のレクイエム』『白毛女』
6. 第5世代監督健在 『シネマ54』第1編第1章
・張芸謀 (チャン・イーモウ) 『SHADOW 影武者』『ワン・セカンド 永遠の24フレーム』『崖上のスパイ』『狙撃手』
7. 第6世代監督も健在 『シネマ54』第1編第2章
・賈樟柯 (ジャ・ジャンクー) 『帰れない二人』
・婁燁 (ロウ・イエ) 『シャドウプレイ【完全版】』『サタデー・フィクション』
・刁亦男 (ディアオ・イーナン) 『鴛鴦湖の夜』
8. 第8世代監督の進出が顕著 『シネマ54』第1編第3章
・毕赣 (ピー・ガン) 『凱里ブルース』『ロングデイズ・ジャーニー この夜の滄てへ』
・胡波 (フーボー) 『象は静かに座っている』
・仇晟 (チウ・ジョン) 『郊外の鳥たち』
・顧晓刚 (グー・シャオガン) 『春江水暖〜しゅんこうすいだん』
・李睿珺 (リー・ルイジュン) 『小さき麦の花』
9. SFモノ大作の対策も次々と!
『流転の地球—太陽系脱出計画—』 2024年3月に日本で公開

第2 台湾 — 民主化との関連をどう考える? 『シネマ54』第3編第3章

1. 1980年代
・侯孝賢 (ホウ・シャオシェン) 『非情城市』
2. 近時の大作あれこれ
『親愛なる君へ』『ガッデム 阿修羅』『恋の病〜潔癖なふたりのビフォーアフター〜』『1秒先の彼女』

第3 香港 — 返還から「一国二制度」のあり方をどう考える? 『シネマ54』第3編第2章

1. 1980年代の香港映画の名作 (カンフー映画とウォン・カーワイ作品)
2. その後の香港映画あれこれ
『プロジェクト・グーテンベルク 贗札王』『追龍』『奈落の人』 etc.
3. 近時の香港映画あれこれ
『Blue Island 憂鬱之島』『少年たちの時代革命』 etc.

<第5部 この3冊の本をどう学び、どう読み解く?…資料4

第1 藤井省三『中国映画を読む本』(朝日新聞社・1996年5月発行)

第2 佐藤忠男『中国映画の100年』(二玄社・2006年7月発行)

第3 劉文兵『映画がつなぐ中国と日本 日中映画人インタビュー』(東方書店・2018年8月発行)

<第6部 中国歴史TVドラマを楽しもう!>…資料5

第1 中国歴史TVドラマは名作揃い

1. 春秋戦国時代
・『孔子』(2009年・全38話)(紀元前553年〜479年頃)
・『天命の子〜趙氏孤児』(2013年・全45話)(紀元前597年〜583年頃)
・『鬼谷子〜聖なる謀〜』(2016年・全52話)
2. 春秋戦国時代〜秦の始皇帝
・『キングダム〜戦国の七雄〜』(2019年・全7話)
燕、趙、楚、韓、魏、斉、秦の七国で1話ずつ
・『ミーユエ 王朝を照らす月』(2015年・全81話)(紀元前338年〜紀元前265年頃)
始皇帝の高祖母・宣太后が主人公 (スン・リー主演)
・『コウラン伝 始皇帝の母』(2019年・全62話)
始皇帝の母・厲 VS 嬴政 (後の始皇帝) VS 呂不韋
3. 秦〜漢
・『項羽と劉邦〜King's War』(2012年・全80話)(紀元前210年〜202年頃)
4. 前漢時代
・『賢后 衛子夫』(2013年・全47話)(紀元前130年〜100年)
5. 後漢から三国時代
・『三国志 Three Kingdom』(2010年・全95話)(180年〜280年頃) 魏×呉×蜀
・『三国志〜趙雲伝〜』(2016年・全59話)(189年〜219年頃)
6. 北魏
・『王女未央—BIOU—』(2016年・全54話)(423年〜490年頃)
7. 隋
・『ムーラン』 楊堅 (580年〜600年頃)
・『独孤伽羅〜皇后の願い〜』(2018年・全55話)
8. 唐
・『武則天—The Empress』(2015年・全82話)(638年〜705年頃)
9. 明
・『大明皇妃—Enpress of the Ming—』(2019年・全62話)

第2 大型TVとレコーダーの活用法

1. 昔はビデオテープ (VHS、VS ベータ) に録画
2. 今は、60型、70型、75型、85型の大型TV+レコーダーに撮り放題
2台同時に再生、コマーシャルを消去
3. ちなみに、私のリビングは3台のTV+レコーダー、寝室に2台のTV+レコーダー

以上